井上 道義の 未来だった今より

いしかわ スクエア

♬ 何が普通か

先日、大阪で同い年で旧知の松井考典という宇宙学者をゲストに招き、対談をはさみながらホルストの「組曲惑星」のコンサートをやった。そこで、学者というのはなんてイカレテいるんだ！と思った。

なぜって？「自由に生きたくって、自分の時間を人に売りたくなくって学者になった」と言うし、今はどこで仕事をしているのか？と聞くと、「昔からどこでもかしこでもいつでもやっている」と言うのだから。

音楽家なんぞも相当自分勝手だし、そんな自由人間の最右翼と思っていたが、どうも学者、特に宇宙という際限のない距離と時間の中に生きる人たちはさらに徹底しているようだ。しかし、他の動物がなしえなかった人間圏に地球を取り込んだ存在（＝人類）を考えるということは、人にとって一番根源的な生きる意味を考えることそのものだ。そんな哲学のような研究を続けながら給料をもらい、実験に大金を使い、答えのない答えを追求する彼の姿に正直、10秒ぐらい嫉妬を感じた。

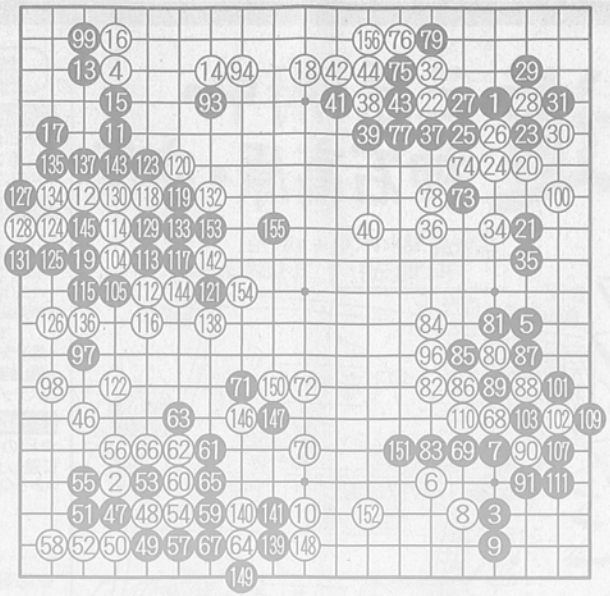
彼の本の中で一番衝撃的だった数字は「今の割合で人口が増え続けると、二千数百年で人間の重さが地球より重くなる」ということ。当然そんなことは起こり得ないから、有史以来のようには人類はこの先増え続けられないのは明白だ。そんなこと考えると、「地球にやさしく」するとかいう甘っちょろいエコ思考？なんぞ意味がなく、地球のために一番いいことは「早く死ぬ」ということなんだろう。

でもみなさん！　一緒にしつこく長生きして、面白いことや楽しいモノすべて、欲望いっぱい吸いこんでから死にましょう。今年も桜散った後の大型連休中、石川県立音楽堂周辺は素晴らしい音楽がいっぱい！

（オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督）

囲碁

156手で白の時間切れで黒の勝ち



33コウ取る(23)、45ツグ(28)、92コウ取る(80)、95同(89)、106同(88)、108ツグ(103)

する。

白18までゆっくりした流れで進む。しかし、右上白20のカカリに対し黒21とハサミ、23、25と趣向することで流れは急変する。だが、黒45のツギは解せない一着。大緩着であり、白に46と左下に先鞭（せんべん）されて黒は序盤で後れをとった。硎野君に硬さが感じられた。

問題は左辺の攻防だ。ここが勝負どころで、本局の帰趨（きすう）を決する場面となった。参考図＝右下＝を見て頂こう。まず本譜、白122では、参考図白1と打つ所。以下符号順に白19まで白の取り番のコウとなる。それだと白の優位は動かなかった。徳富さんにとっては痛い読み違いであった。黒137まで無条件で白8子が取られてはここで勝負は決したといえる。白156と打ったところで、白の徳富さんの時間が切れたため、黒の時間切れ勝ちとなったが、盤面で10目以上の差がついている。硎野君、薄氷の勝利と言えよう。

石川県囲碁史上、高校生が一般棋戦において優勝したのは初めてであり、大快挙だ。また、長年にわたって王者に君臨してきた神野さんも破っただけに一層価値あるものであった。

金沢市広報 拡金沢
毎週火曜日掲載 平成24年4月24日
金沢市役所(〒920-8577 広坂1-1-1) 広報広聴課
☎(076)220-2033 FAX(076)220-2030
Eメール:kouhou@city.kanazawa.lg.jp
●ホームページ 金沢市 検索 ●ツイッター・ユーチューブ 【アカウント】 CityofKanazawa
凡例 日時 場所 対象者 内容 費用(記載の無いもの無料)
インフォメーション